

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 2月 25日

事業所名 キノコにいろクラブ

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	13	0		今後も子どもたちにとってより良い環境を整えていく。
	2 職員の配置数は適切である	10	3	職員の急な休みがあった場合は支援配置を優先している。	配置はマンツーマン以上だが、利用登録者数が多く管理作業の人手がいるためICTシステムを導入予定。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	12 ※無回答1	0		最近では低月齢(0歳児)の受け入れも増えているので、さらに必要な設備を整えていく。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	13	0	衛生管理マニュアルに則った毎日の清掃に加え、週ごと、月ごとの清掃チェックリストを作成している。	定期的なチェックが行えるよう、衛生管理係が各担当へ呼びかけを行う。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	13	0		業務改善の意識を持つために業務の係分担を行い、当事者意識を根付かせる。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	13	0	イベントや勉強会ごとに保護者向けアンケートを実施している。	保護者からのフィードバックに加え、子どもたちからの希望調査も行っていきたい。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	11 ※無回答2	0	事業所評価の結果はホームページで公開し、保護者説明会で説明している。	引き続きホームページでの公開と中途入職のスタッフへの共有も行っていく。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	9 ※無回答3	1		第三者による外部評価を行っているが、評価結果を共有できていなかったため全員に周知する。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	13	0	週1は研修を実施。空いた時間にも積極的に研修を取り入れている。	専門性や経験のある職員や外部の講師からスーパーバイズを受ける機会を設ける。
適切な 支援の 提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	13	0	週1回ケースに関する共有を行い、支援の方向性を確認している。	児童数が増えているため児童発達支援計画の作成に関与できる職員を育成する。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	12 ※無回答1	0	事業所独自の評価バッテリーも活用している。	アセスメントツールを活用しつつ、数値化できない評価や、評価結果に対する手立てが行えるようにする。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	12 ※無回答1	0	週1回ケースの共有の中で発達支援、家族支援、地域支援についての方向性を共有し、具体的な支援内容を確認している。	職員全員が児童発達支援計画の内容を把握し、事業所での通所支援(発達支援)、ペアトレや相談支援(家族支援)、保育所等訪問や関係機関との連携支援(地域支援)について各自が役割を自覚できるよう共有を行う。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	13	0	児童発達支援計画の作成時に行っている面談の内容を翌週までに共有している。	支援の内容が計画に沿っていない場合は、軌道修正をしたり、職員間で計画の見直しの必要性などを検討する。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	12 ※無回答1	0	支援記録の記載時、支援のポイントを3つに絞り担当が変わっても連続性を持てるようにしている。	各自がプログラムの引き出しを増やせるような勉強会を開催したり、チームでケースを深めていく研修を行う。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	子ども一人一人の主体性を引き出すことを意識し、オーダーメイドなプログラムを提供している。	定期的に事業所内勉強会を行い、外部研修にも参加を促進していく。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成している	12 ※無回答1	0	個別活動、集団活動の両方に個々の課題を組み込んで児童発達支援計画を作成している。	子どもは子どもの中で育つことを念頭に、できる限り個別から集団に移行できるよう環境を整えていく。
17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	1	配置の確認を前日に行い、事前にイメージができるようにしている。	子どもの個別カルテに目を通し、疑問があれば都度確認するようになる。	

18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	9	4	・全体では行っていないが個々で行なっている。各支援で問いを立て、検証と評価を行い次にして欲しいことをポイントを絞って記録している。	検討が必要なケースについてリスト化するようにし、早めに共有の時間を作る。
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0	毎回支援に当たった問い(仮説)を立て、事実→解釈→行動をいう定型のフレームによる記録を採用している。	写真や動画も活用し、客観的な検証が行えるようにする。
20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	13	0	ペアトレの中で保護者や本人のニーズを確認できるように積極的にコミュニケーションをとるようにしている。	特に低月齢だと半年に1度の見直しではなく成長に合わせて細かくモニタリングを行う。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	13	0	子どもの状況をよく知り、専門的知見で説明できる職員が参画している。	利用時数の増加に伴い、会議に対応できる職員育成をしていく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	0	見学予約は必ず保健センターを通すようにし、見学にも同席してもらい情報収集を行っている。	今後は0歳児からの支援を医療関係者とも連携し強化していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	11 ※無回答1	1		現在該当児なし
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	6 ※無回答7	0		現在該当児なし
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	日頃から保育所等訪問にて関係性を作り、希望があればいつでも見学を受け入れられる体制を整えている。	放課後等デイサービスの枠が足りないので、未修学児のうちに卒業した子どもの移行支援も行っていく。(制度としてはできなくても)
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	13	0	年長児には早めに就学に関する意向の確認を行い、早めに情報共有できるようにしている。	引き続き情報共有、相互理解を図る。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	11 ※無回答1	1	島内外問わず、相談できる事業所や専門機関がある。	今後も職員の研修機関として連携先を増やしていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	10 ※無回答1	2	利用児の大多数が事業所以外に園生活で交流を行っているので特段必要はないと考えている。	障がいのあるなしに関わらず、子どもが子どもの中で育つ環境の重要性を広く地域に呼びかけていく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	11 ※無回答1	1	積極的に参加している。	議事録や研修まとめを共有し、周知に努める。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	13	0	ペアトレや必要に応じて家庭連携支援を行っている。	
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	13	0	ペアトレの重要性を見学時からお伝えし、積極的な参加を促している。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	1	契約時に説明する内容をリスト化し、漏れないようにし、重要な部分は特に強調して説明している。	説明ができる職員が限られているため、今後増やしていく。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	12	1	ガイドラインに示された支援内容と保護者の意向や園での様子から検討した支援内容のすり合わせを行っている。	引き続き丁寧な説明に努める。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	13	0	気軽に相談していただけるように日頃からコミュニケーションを大切にしている。	適切な助言ができるようになりたい職員が常に学べる環境を整える。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9 ※無回答4	0	保護者同士の交流の機会として保護者勉強会やマルシェを開催している。	今後は保護者の中で自主的に活動を行ってくださる方を見つけていく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	13	0	保護者からの相談や申し入れはすぐに共有を行い、対応するように職員に周知している。	引き続き、情報共有や連携を迅速に行う。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	13	0	月だよりや個別の連絡だけでなく、LINE VOOM機能やFacebookを活用している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0	個人情報の公開可能範囲を一覧にしたり、人権擁護のアンケートを取るなどして意識化を進めている。	今後も引き続きリスク管理をしていく。
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	13	0	必要に応じて写真や絵を用いて説明したり、個別に対応している。	引き続き丁寧な説明や配慮に努める。

40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	11 ※無回答1	1	イベントには外部講師やボランティアの方に参加してもらっている。	今後も関わってくれる方を増やしていく。
----	------------------------------------	-------------	---	---------------------------------	---------------------

非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	13	0	各マニュアルを作成し、非常時に対応できるよう訓練を行っている。	避難訓練の実施についてはLINE VOOMにて都度公開していることを周知する。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	13	0	年間で避難訓練実施計画を作成、実施している。	引き続き、消防署等の協力を得ながら訓練を実施する。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	11	2	契約時の聞き取り後、書類を回覧し周知している。	回覧だけでは支援者が解っていない場合があるので、口頭でも共有を行う。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	9 ※無回答2	2	契約時の聞き取り後、書類を回覧し周知している。	食事提供がなくても情報共有に努める。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	13	0	ヒヤリハットとアクシデントに分けて記録をとっている。	定期的に振り返り、改善がなされているか検証していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	13	0	所轄組織が開催している研修に参加し、伝達研修を行っている。	年2回の人権擁護アンケートの結果を共有する。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	11 ※無回答1	1	契約時に身体拘束の禁止を記載し、説明している。	やむを得ず身体拘束を行った際は必ず保護者に説明、記録する。